

埼玉地区ハイキング開催報告

埼玉地区ハイキングは11月19日、雲一つない晴天に恵まれたなかで開催となりました。今回は、過去に一度計画されましたが台風の影響を受け中止となっていた武蔵嵐山周辺を巡るコースを選定しました。



今回は千葉地区から4名の参加があり、総勢11名で東武東上線武蔵嵐山駅に集合したのち最初の目的地鬼鎮神社に向けスタートしました。

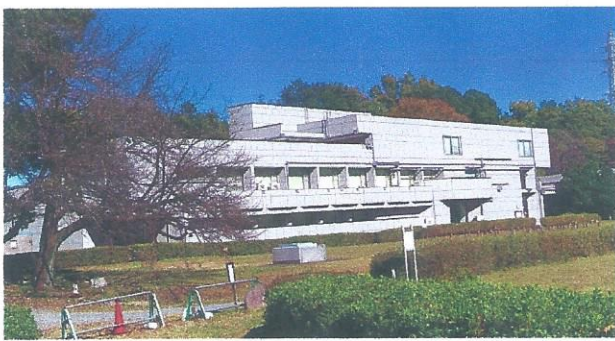
鬼鎮神社は全国でも珍しい、鬼を大切にしている神社です。1182年、畠山重忠が住む菅谷館の鬼門封じとして創建されたのが始まりといわれています。鬼門除けの守護神として節分祭、勝負の神として有名です。

また、悪魔祓いの神、家内安全・商売繁盛の神、受験の神と人生の指針を示し、強い力を授ける神として崇められています。

節分祭は鬼鎮神社において一番大きなお祭りで「福は内、鬼は内、悪魔外」と連呼する、日本でここだけの鬼の祭りであり、境内は大変な賑わいとなります。

2番目の目的地は嵐山史跡の博物館と菅谷館跡。

博物館到着後、館外の休憩所で周辺の紅葉を眺めながら青空のもと昼食と休憩。



嵐山史跡の博物館は史跡「菅谷館跡」や比企地域の中世城館跡をはじめとする貴重な文化財が展示されています。また、展示室には中世（平安時代末期から戦国時代の終わりまで）を対象として(1)当館が立地する菅谷館に居住していたといわれる武蔵武士の畠山重忠(2)武士の館と暮らし(3)県内の中世城館跡(4)石造物からみた中世に生きた人々の信仰などをテーマとし、展示されています。最新の出土資料や研究成果

を、写真パネルや年表なども活用しながら、わかりやすく紹介しています。

菅谷館は鎌倉幕府の有力御家人として知られる畠山重忠の館跡と伝えられています。しかし、現存する土塁や堀などの遺構の形状や、ごく限られた範囲で実施された発掘調査の結果、見つかった遺構や遺物は主に戦国時代以降のものであり、重忠の時代のものは確認されていません。

現在の菅谷館跡は、約13万㎡（東京ドーム約3個分）に及ぶ広大な面積を持つ、戦国時代の複郭式の平城です。

現在見られる城跡は戦後時代の城で続日本100名城に選定され、また比企城館跡群として国指定史跡です。



畠山重忠は、鎌倉幕府に仕えた有力御家人のひとり。その人物像は「坂東武士の鑑」と評され、智勇兼備なだけでなく眉目秀麗な姿であったと伝えられています。畠山重忠像は昭和4年に地元有志の方々が作りました。竹を芯にした「竹筋コンクリート」製です。直垂をまとい、烏帽子つけた重忠像は鎌倉の方を向いて立っています。



本多静六博士が訪れた際につぶやいたことが町名の由来にもなっています。

当日は、紅葉のピークまでにはあと数日かかりそうと思われましたが、十分紅葉を楽しむことができました。

紅葉の嵐山溪谷を後に、ゴールの武蔵嵐山駅を目指します。嵐山駅到着後、参加者と秋晴れに感謝し解散となりました。



最終目的地は嵐山溪谷です。嵐山溪谷は、岩畳と槻川の清流、周囲の木々の豊かな自然環境を持った埼玉県を代表する景勝地のひとつです。特に大平山から伸びた細原と呼ばれるところでは、180度転じて半島状の独特な地形をつくりだしています。溪谷と周囲の赤松林の美しい様子を見ることができます。

景観が京都の「嵐山」に大変よく似ている「これは武蔵の嵐山だ」と日本初の林学博士、



[幹事：高橋 要]